

教科	保健体育	科目	保健			単位数	1 単位
学科	普通科 工業科	履修 学年	2	コース		必修・選 択	必修
教科書	「現代高等保健体育」 大修館						
副教材等	「現代高等保健体育ノート」 大修館						

グラデュエーション ・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム ・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。

学 習 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身につけるようにする (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに目的や状況に応じて他者に伝える力を養う (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
指導の重点	健康の意味や意義について理解を深め、現代社会が抱えている健康問題を把握する。ヘルスプロモーションの重要性を深めながら、保持増進するための対策や疾病予防のための基礎的な知識を習得し、実践できる態度と能力を育てる。

学 習 計 画	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (10)	【生涯を通じる健康】 1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康 3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康 5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康 7. 中高年期と健康 8. 働くことと健康 9. 労働災害と健康	・ライフステージと死亡や病気 ・各ライフステージにおける健康課題とその支援 ・思春期の体と健康 ・思春期の心と健康 ・性意識とその尊重 ・性に関する情報と性行動 ・受精・妊娠・出産 ・母子保健サービスの活用 ・家族計画の意義と避妊法 ・人工妊娠中絶 ・結婚生活の基盤となる心身の発達 ・結婚生活と家族の健康 ・加齢による変化と健康 ・高齢者の健康を支える取り組み ・働くことと健康のかかわり ・働き方と健康問題の変化 ・労働災害とその要因 ・労働災害の防止	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
	2 学期 (12)	10. 健康的な職業生活 【健康を支える環境づくり】 1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備 5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動 7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用	・職場における取り組み ・仕事と生活の調和 ・大気汚染の原因と健康影響 ・大気にかかわる地球規模の問題 ・水質汚濁とその健康影響 ・土壌汚染とその健康影響 ・大気汚染、水質汚濁、土壌汚染のかかわり ・環境汚染の防止とその対策 ・産業廃棄物の処理と健康 ・ごみの処理の現状 ・安全で良質な水の確保 ・食品の安全性と健康 ・食品の安全性に関する今日的課題 ・食品の安全性の確保 ・食品の安全性と私たちの役割 ・保健行政の役割 ・保健サービスの活用 ・医療の供給と医療保険 ・医療機関と医療サービスの活用	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。

	3 学期 (10)	9. 医療品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	・医療品の種類と使用法 ・医薬品の副作用と安全性を守る取り組み ・健康を支える保健活動と社会的対策 ・保健活動や社会的対策への住民の理解 ・健康と環境づくり ・環境づくりへの社会参加と情報の活用	定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、評価する。
計 3 2 時間（5 5 分授業）				
評価の観点の趣旨と評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	現代社会と健康、安全な社会生活について、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、知識を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に表現している。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活に結びつけようとしている。	
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、定期考査や小テストの成績、授業中の態度・発表、レポート等各種提出物、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80% 以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。			